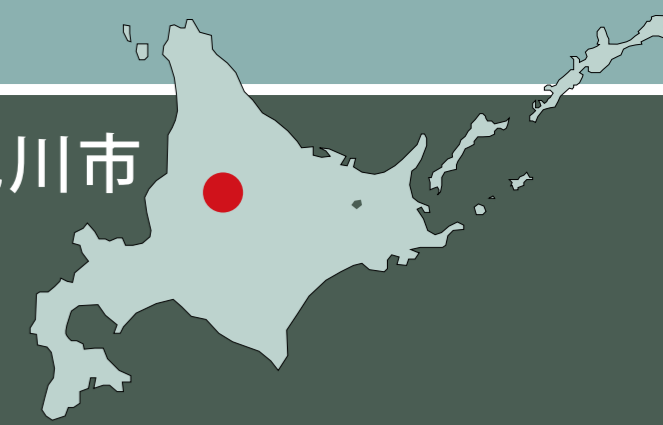


外国樹種見本林 (旭川市)

旭川市



三浦綾子記念文学館が併設され、三浦ファンの聖地となっている

多様な価値が生まれている都市内の樹林

北海道の開拓が急速に進展し、河川の氾濫や漁獲高の減少、用材や薪材の不足が懸念されるようになったことから、伐採や山火事跡地への造林の必要性が高まり、1898(明治31)年から厳しい気候条件に適した外国産樹種の適性を調べるための見本林を作ることになった。

植栽後百年以上経った巨木もたくさん残っているほか、林床植物もかなり充実しており、エゾリスや野鳥類など、豊かな生態系が都心部に存在していることの意義も大きい。

1998(平成10)年に三浦綾子記念文学館が入口部に設置され、「氷点」とその舞台に登場する樹林とが一体となって運営・維持されていることから、全国や海外から訪れる三浦ファンの拠り所となっている。

本来は林業的な施設であるが、都市内の貴重な樹林としての価値が極めて高く、文学館の併設により多様な価値が生まれていることも高く評価される。

概要

名称	外国樹種見本林
所在地	旭川市神楽7条8丁目
管理者	北海道森林管理局上川中部森林管理署
規模	約15ha
種別等	樹林(国有林)
開設年	1898(明治31)年

嵐山・神居自然休養林の一部となっている。



2004(平成16)年の18号台風で大きな被害を受けたが、市民の手によって復活の植樹が行われた



百年以上経っている巨木が林立し、圧倒的な存在感を示している